

2026年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社

(単位：億円 億円未満切捨て)

2026年3月期 第3四半期決算の概要

・本年度第3四半期決算は、プライマリーメタル事業や海外販売子会社において取引が拡大した結果、売上高は前年同期比2%増の1兆9,654億円となりました。利益面では、主にリサイクルメタル事業の損益が悪化したことや人件費の増加などにより、営業利益は前年同期比12%減の414億円に、経常利益は前年同期比16%減の364億円に、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比19%減の256億円となりました。

・年間配当は250円（中間配当125円、期末配当125円）を予定しております。

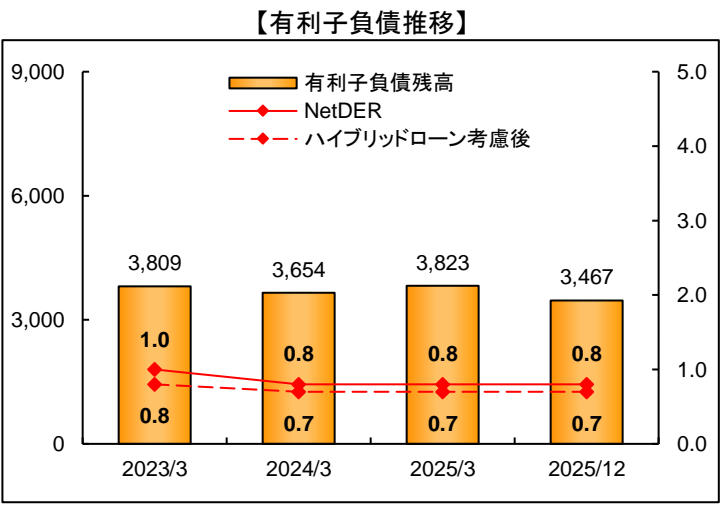
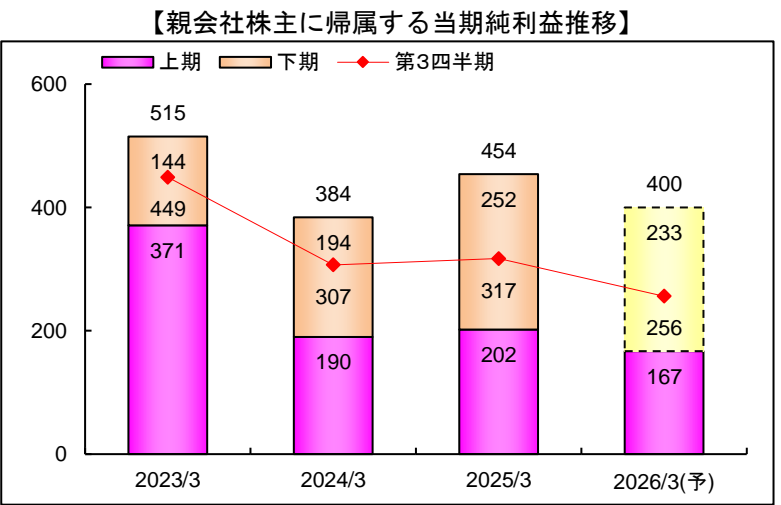
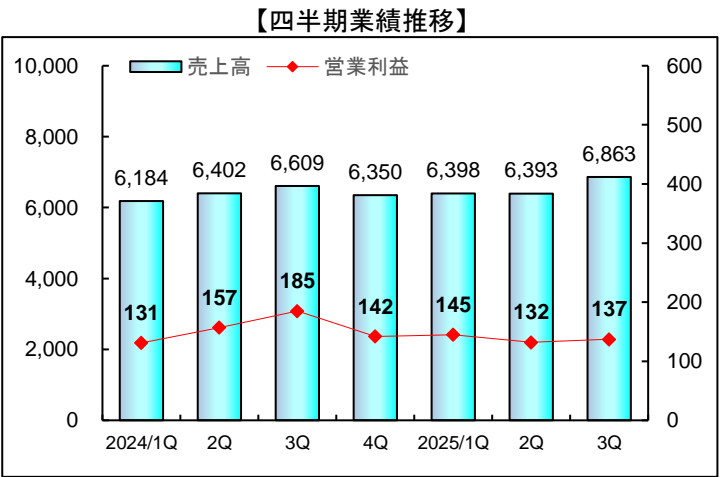
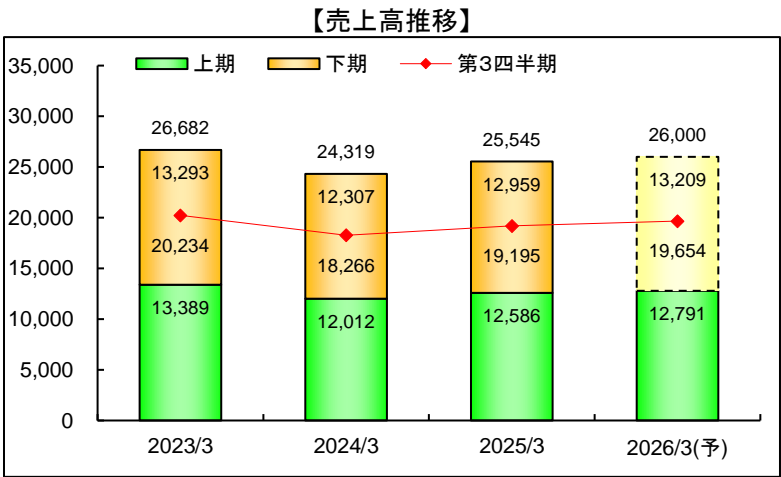
経 営 成 績	前第3四半期 (累計)	当第3四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増 減	増減率	
売 上 高	19,195	19,654	458	2%	(売上高) プライマリーメタル事業や海外販売子会社において取引が拡大した結果、前年同期比2%増の1兆9,654億円となりました。
売 上 総 利 益	1,038	1,023	△15	△1%	
販 管 費	564	608	43	8%	
営 業 利 益	473	414	△59	△12%	
営 業 外 収 益	82	72	△9	△12%	
営 業 外 費 用	123	122	△1	△1%	
経 常 利 益	432	364	△67	△16%	
特 別 利 益	27	1	△26	△96%	
特 別 損 失	—	1	1	—	
税引前四半期純利益	459	363	△96	△21%	
法 人 税 等	143	112	△31	△22%	(販管費) 前年同期比で43億円（新規連結子会社の影響額は10億円）の増加でした。その内、人件費は26億円（新規連結子会社の影響額は6億円）の増加でした。 (営業外損益) 営業外収益は9億円減少、営業外費用は1億円減少しました。経常利益に対する主な影響は以下の通りです。 受取配当金：前年同期比で9億円の減少 支払利息：前年同期比で10億円の減少 持分法投資損失：前年同期比で24億円の増加 為替差損：前年同期比で6億円の減少 (特別利益) 投資有価証券売却益：前年同期比で16億円の減少 関係会社出資金売却益：前年同期比で9億円の減少 (特別損失) 投資有価証券売却損：当期において1億円の発生
四 半 期 純 利 益	316	251	△65	△21%	
親会社株主帰属分	317	256	△61	△19%	
非支配株主帰属分	△1	△5	△3	—	
E P S	786.75円	644.32円	△142.43円	△18%	
四 半 期 包 括 利 益	272	320	47	18%	

セグメントの状況	売 上 高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	前第3四半期	当第3四半期	増減率	前第3四半期	当第3四半期	増減率	
鉄 鋼	8,733	8,068	△8%	238	282	19%	(鉄鋼) 各種鋼材価格の下落や鋼板の取扱数量が減少したことが収益を押し下げました。一方、建設資材の販売が堅調に推移したことや一部の海外子会社で採算が改善したことが利益を押し上げました。 (プライマリーメタル) 一部の副資材の販売が堅調に推移したことが収益を押し上げました。一方、SAMANCOR CHROME HOLDINGS PROPRIETARY LTD. からの持分法による投資損失が拡大したことが利益を押し下げました。 (リサイクルメタル) 鉛鉱石の取扱数量が増加したことが収益を押し上げました。一方、棚卸資産の価格変動リスクをヘッジするデリバティブ取引において評価損を計上したことが利益を押し下げました。 (食品) 米国子会社で外食産業向け販売が好調に推移したことや、新規連結子会社の業績などが収益・利益を押し上げました。 (エネルギー・生活資材) 原油価格が低調に推移したことや、化学品関連の採算が悪化したことなどが収益・利益を押し下げました。 (海外販売子会社) 東南アジアでスクラップ取引が拡大したことや、新規連結子会社の業績などが収益を押し上げました。一方、主に鉄鋼製品の採算が悪化したことなどが利益を押し下げました。
プ ラ イ マ リ ー メ タ ル	1,427	1,764	24%	29	3	△90%	
リ サ イ ク ル メ タ ル	1,786	1,967	10%	29	△20	—	
食 品	1,080	1,185	10%	22	33	49%	
エ ネ ル ギ ー ・ 生 活 資 材	2,843	2,794	△2%	76	56	△25%	
海外販売子会社	3,222	3,812	18%	60	41	△32%	
報告セグメント計	19,093	19,591	3%	456	395	△13%	
そ の 他	997	977	△2%	15	14	△3%	
合 計	20,090	20,568	2%	471	410	△13%	
調 整 額	△894	△913	2%	△39	△46	16%	
P L 計 上 額	19,195	19,654	2%	432	364	△16%	

*当第3四半期連結会計期間より、当社から連結子会社への株式譲渡による組織構造の変更に伴い、従来「鉄鋼事業」に区分しておりましたCOSMO STEEL HOLDINGS LTD.を「海外販売子会社」に変更しております。なお、前年同期比較につきましては、変更後の区分方法に基づき行っております。

トピックス	4月 兼松トレーディング株式会社(現HKGトレーディング株式会社)の株式の100%を取得（協和スチール株式会社、永和金属株式会社、株式会社建鋼社、協和運輸株式会社も同時にグループ会社化）。
-------	--

財 政 状 態	前期末	当第3四半期	前 期 比		主な要因
			増 減	増減率	
総 資 産	11,658	11,456	△201	△2%	(総資産) 現金及び預金や棚卸資産の減少などにより、前期末比2%減となりました。
(流 動 資 産)	9,037	8,815	△221	△2%	
(固 定 資 産)	2,621	2,641	20	1%	
負 債	7,763	7,403	△359	△5%	(負債) 短期借入金や社債の減少などにより、前期末比5%減となりました。有利子負債は9%減少し、Net DERは0.8倍(*0.7倍)となりました。
(グロス有利子負債)	3,823	3,467	△355	△9%	
(ネット有利子負債)	3,170	3,037	△132	△4%	
Net DER	0.8/0.7*倍	0.8/0.7*倍	△0.1倍	—	(純資産) 親会社株主に帰属する四半期純利益からの利益剰余金の積み上がりやその他有価証券評価差額金の増加などにより、前期末比4%増となりました。自己資本比率は、前期末比2.0ポイント上昇の34.9%(*37.1%)となりました。 (*ハイブリッドローン考慮後のNet DER及び自己資本比率)
純 資 産	3,894	4,053	158	4%	
(株主資本)	3,396	3,493	96	3%	
(その他の包括利益累計額)	433	504	70	16%	
(非支配株主持分)	64	55	△8	△14%	
B P S	9,485.64円	10,177.82円	692.18円	7%	
自 己 資 本	3,830	3,997	167	4%	
自己資本比率	32.9/35.0*%	34.9/37.1*%	2.0pt	—	



今期の見通し	前期実績	今期業績予想	対前期増減率
売 上 高	25,545	26,000	2%
営 業 利 益	615	550	△11%
経 常 利 益	597	550	△8%
親会社株主に帰属する当期純利益	454	400	△12%

配当の状況	前々期実績	前期実績	当期予想
中 間 期	85.00円	105.00円	125.00円
期 末	100.00円	120.00円	125.00円
年 間 配 当	185.00円	225.00円	250.00円
D O E *	2.7%	3.0%	3.0%

* DOE（株主資本配当率）＝配当総額÷期首株主資本